

高知カツオ県民会議 第11回情報発信分科会 議事要録

2018年6月15日(金) 16:30～ 於：土佐料理「司」

※別紙に出席者一覧

1 宮田座長が新会員、初出席者、オブザーバーを紹介

◇新会員から一言

- ・毎日新聞高知支局 井上 大作さん（前任者 村瀬達男支局長の後任者）

「4月に赴任して来ました。出身は神戸、中四国エリアでの支局勤務が続いており、前任地は高松支局だった。（先月20日の）カツオ祭りには参加できなかったが、翌週、中土佐町でカツオを食べてきた。カツオに関する知識を深めたい」

- ・(株)林釣漁具製作所 社長 久場 幸信（くば ゆきのぶ）さん

「(高知市)梅ノ辻で釣り漁具の製作・販売を行っています。出身は宮崎県、久場という性は沖縄に多い。カツオ船に一本釣りの竿や、かぶら（仕掛け）などの漁具を納める仕事を続けてきたが、近年はかなり減っている。（カツオ復活のために）何ができるのか、少しでもお手伝いをしたい」

◇初出席者

- ・全日本司厨士協会 高知県本部 理事長 斉藤 和三（かずみ）さん

「(普段の職場は)城西館で洋食料理長を務めている。以前からカツオ県民会議の活動に関心を持っていた。自分にできることで積極的に参加していきたい」

◇オブザーバー出席

- ・県水産政策課 豊かな海づくり推進室 大山 隼人さん

「10月に本県で開かれる『全国豊かな海づくり大会』の広報を担当している。高知市の中央公園で開かれる関連イベントに関する説明とステージ出演の依頼のため参加させてもらった」

2 議 題

◇中土佐町「かつお祭り」ブース出展の実施報告（西野 共同通信高知支局長）

・配布した報告書はブース出展で多大なご協力をいただいた和建设のスタッフがまとめたものだ。この報告書が今後のイベントなどでのブース出展のノウハウ

ウに役立つことを意識し、具体的にどんなものを準備し、何が必要か、分かるようになっている。

- ・ペイントシールは 3000 枚用意した。製作後、初の本格的な配布で、ブース来場者らに貼ってもらい、約 1000 枚を使用した。中には中土佐町職員のように「貼ってもらいたい」という希望者もいた。会場では「かつおすきやき」を顔に貼った人たちが結構、目に付いた。また、イベント終盤では、出店の人たちにも呼び掛け、皆さんに貼ってもらった。

- ・和建設の参加スタッフは今春の新入社員 8 人と同社人財プロジェクト推進室 2 人の計 10 人。SNS 班、シール貼付班、招待客対応班、撮影班、これらの班を補助する機動班の 5 班に分けて役割分担した。

- ・各班ごとに「成果点」、「改善点」をレポートし、報告書の最後には「今回の成果」と「今後の課題」がまとめられている。「成果」としては「イベントが面白く、集客があった」「子供の目線に合わせて作業ができた」「サニーズの影響力があった」「余裕があるときに別に班の手伝いができた」が挙げられている。「課題」として挙げられているのは「(写真撮影と SNS 掲載の) 承諾書への記載呼び掛け方法の検討」「自分たちもイベントに参加できるように人員配置を考える」など。

- ・私自身もブースでの作業に加わったが、ペイントシールの影響力が思いのほかあり、シールを貼るだけでウキウキする人が数パーセントはいるように思った。今後も活用に期待感を感じた。

《質 疑》

- ・「今後の課題」に「マナーの悪い来場者に対する注意喚起」とあるが、酔っ払いだろうか

→よく分からない。おそらくそうだろうと思うが、少なくともトラブルになった、もめ事はなかった。

- ・ペイントシールは確かに思った以上に好評だった。知事や国会議員の方たちも貼っていた。シールを貼ることで、普段の自分とは違う自分を感じる効果があるのだろう。ご苦勞をかけた和建設のスタッフには重ねて感謝したい。

- ・SNS に関して今後の留意点があったと聞いている。撮影した写真をフェイスブックなどにアップすることについて承諾の署名をもらっていたが、アップ

する画像と署名をもらった人の名前を照合して一致させることが困難だったケースがあったようだ。今後の課題だろう。

→大勢の人を相手に限られたスタッフで対応しなければならない。なかなか十分に行き届かない場合もあり得るだろう。マンパワーは今後の課題だ。

◇ ペイントシールの値段設定について。 (西野支局長)

・これまで中土佐町「カツオ祭り」や、修学旅行で活用したいという申し出があった四万十市の中学生、よさこい踊り子隊などには無料で配布してきた。ペイントシールの有効性を考えると、今後も活用する機会は増えそうだ。ペイントシールの制作費は1万枚で23万円。今後も無料配布を続けるのかどうか、検討が必要だ。

三つの考え方がある。①これまで通り無料とする。②製作にかかった原価レベルとする。原価は製作枚数によって単価は変わってくるが、1万枚で約20円見当だ。③原価にある程度の金額を上乗せした値段にする。上乗せ分は当県民会議の活動資金に充てる。

《意見交換》

・どういう場面でどういう使い方をするかによって、対応も違ってくるのではないか。例えば、企業が数百枚、千枚単位でまとめて引き取るようなケースは有料販売も可能だろうが、イベントなどで各人に1枚数十円で売るというケースはお金の管理もなかなか大変になると思う。

・販売先を企業に限定する有料販売を基本にすればどうか。企業にまとまった枚数を買って取ってもらい、使い方はその企業に任せる。その方が企業側は使い勝手が良いと思う。

・ただ、ペイントシールは使い方や使う場面が限られてくる。「カツオすきやき」と同じデザインのステッカー販売も検討したらどうか。ステッカーの用途はペイントシールよりも広がるだろうし、使い方はそれぞれが自由に考えることができるだろう。

・県民の参画意識をどう醸成するか、以前にこの会で論議したとき、個人でも簡単にできることとして募金を集めたらどうか、という提案もあった。今回のようなイベント(中土佐町カツオ祭り)時に、金額を決めずに募金を募り、募金者にペイントシールやステッカーを進呈すれば、資金集めにもなるし、参画意識の広がりにもつながる。企業向け販売は良いとして、個人からの「資金集

め・参画意識の醸成」の流れもつくれるのではないか。

・カツオ祭で募金箱を置いたところ、17,930 円の募金が集まった。イベントでの募金箱は、個人からの資金集めとして有効だと思う。

また、ブース出展を担当してもらった和建設は、配布用パンフをコピー用紙ではなく、良質紙で印刷。イベント終了後、残ったパンフ 2000 部を県民会議にいただいている。この良質紙には 1 枚 26 円かかっており、(お譲りした) ペイントシール 2000 部の原価と、ほぼトントンになっている。

・企業向け有料販売を基本とした場合、その値段はどうするか。原価販売というより、若干の利益を上乗せしてはどうか。販売単位を余り細かく刻まずに例えば、100 枚単位で、2,500 円とか、3,000 円とか。

・企業向けを有料とした場合、例えば、企業が主催する「よさこい踊り子隊」の子供たちにカツオ県民会議のことをもっと皆に知ってもらおう、私たちが協力しようと呼び掛ける一方で、お金が動くというのはどこか引かかる。踊り子隊を主宰する側にすれば、子供たちの言わば「善意の協力」に対価が求められるというのは、どこかズレを感じる。

・そのケースは、企業に対して販売するのではなく、よさこい祭りで踊る子供たちに渡すのだと考えればいいのではないか。有料販売でなく、無償で出せばいい。

・そもそも、値段設定をする理由は「シール製作費とトントンになるくらいの収支は必要だね」ということから始まっており、これで活動資金を稼ごうというのではなかったはず。また、ペイントシールは県民会議の普及啓発が目的という位置づけだった。活動資金を稼ぎ出すのはペイントシールより、もっと使い勝手が良いステッカーでやればいいと思う。

・ペイントシールを貼るのはイベントがある当日だけに限られ、使い方がかなり限定される。企業にまとまった枚数のシールを買い取ってもらっても、企業側にはいつ、どのように使うのか、適当な使い方に困惑を感じると思う。ペイントシールは県民会議の PR 用、ステッカーは活動資金集めに使うと整理すればどうか。

・(商品の物販に関わる業務で) うちでは、例えば「一定金額以上のお客さんにはシールを進呈します」といった使い方ができるし、PR もしたいが、可能

か？

・そうしたケースがまさに、ステッカーの出番になるのではないか。ペイントシールは使い方がなかなか面倒だから。使用法などの説明がないと、シールだけでもらっても何だかよく分からない。

・ペイントシールと同一デザインのとステッカーをどう展開していくか、問題提起をされた黒笹さんを中心にもう少し検討してもらい、提案してもらうこととする。

・ペイントシールについては、よさこい踊り子隊のように県民会議のPR活動に使う場合はお金を取らない。企業が特定の目的を持って購入する場合は、有料（100枚2500円）とし、ステッカーの値段についてはなお、検討していくこととする。

◇茨城大学 客員研究員 二平 章氏の講演会について （事務局 松島）

・前回の分科会で二平氏招聘について承認が得られたことから、二平氏をはじめ分科会幹部らと日程調整、講演内容などについて具体的に話を進めてきた結果、次の通りとなった。

【日時】7月24日(火)15時30分から

【会場】高新文化ホール（高知新聞放送会館 東館7階）

【講演内容】演題「西部太平洋におけるカツオの南北回遊」。

このほか、二平氏が関わった茨城県ひたちなか市の「魚の美味しいまちづくり」の取り組みと「魚食普及条例」についても話してもらう予定。

・カツオ資源の動向に関する理解を深めることが二平氏招聘の目的だったことから、前回の分科会后、資源調査分科会の受田座長（県民会議会長代理）から講演会を情報発信分科会と資源調査分科会との合同開催の提案があった。計画をさらに検討していく中で、一般市民にも参加を呼び掛けるのであれば、県民会議の第3回フォーラムという位置づけにしたらどうかという提案が受田座長からあり、その方向で幹事会に諮ってもらう。

・講演会に関わる経費は、高知新聞厚生文化事業団の助成金で対応したい。今年3月の分科会で報告したように、同事業団から20万円の助成金が決定しており、この助成金を充当する方針だ。同文化事業団への助成申請は、カツオ県民会議が主催するフォーラムに使う主旨で行っている。

・会場に予定している高新文化ホールの収容人数は、いす席だけなら最大 240 人まで、机・いすのセットであれば 100 ～ 150 人。空席が目立たないよう、各分科会の会員はもとより、会員以外の方にも参加を呼び掛けてほしい。一般市民向けの周知も図りたいのでマスコミ各社は告知のご協力をお願いしたい。

《意見交換》

・県民会議の第 3 回フォーラムという位置にするのであれば、単に二平さんの講演だけとせず、フォーラムの性格を若干でも加味した構成にしたらどうか。例えば、壇上ステージで、二平さんと県民会議のメンバーがやり取りするといった場面も必要だろう。

・なお、当日の具体的な構成内容やタイムスケジュールを詰め、告知ビラ案を回覧したい。

◇「土佐のおさかなまつり」でのステージプログラム出演の提案

(県水産政策課 豊か海づくり推進室 大山さん)

「全国豊かな海づくり大会」(10月27 - 28日：土佐市宇佐町、高知市)の関連行事として開催される「土佐のおさかなまつり」(同：高知市中央公園)の概要について、オブザーバー出席の県水産振興部水産政策課、豊か海づくり推進室・広報担当 大山隼人さんが次の通り概要説明した。

・まず「豊かな海づくり大会」から。水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川
の環境保全を国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業を通じて漁業の振興発展を
図ろうと毎年、全国各地を巡回して開催。昨年は福岡県、来年は秋田県で
開催する。

・主催は、東京の「豊かな海づくり大会推進委員会」(会長：全国漁業協同組合連
合会会長)と、県水産政策課に事務局を置く「全国豊かな海づくり大会高知
県実行委員会」

・28日(土)午前に式典行事を高知市文化プラザかるぼーとで開催。これは招
待者のみ約 800 人を予定している。午後は土佐市宇佐町の「しおかぜ公園」で
稚魚放流や沖合いで海上パレードを行う計画だ。この会場も招待者のみ約
500 人。

・関連行事の「土佐のおさかなまつり」は広く県民、市民に参加を呼び掛け、水産関係の飲食ブースや団体からの 55 ブースで構成する。ステージでは（タレントで魚類学者でもある）「さかなクン」や桂浜水族館など海に関係した 20 団体が 2 日間にわたって出演する。

・カツオ県民会議からのブース出展は既に決まっており、出来るならステージにも出演してもらえないか。きょうは、その概要説明と打診のために出席させてもらった。出演者の持ち時間は、ワンステージ 5 ～ 60 分程度。2 日間両日の出演も可能だ。**希望する場合は、出演希望日とステージの内容、所要時間を7月20日までに連絡していただきたい。**ステージ所要時間は 5 分から 10 分くらいになるかと思うが、出演の時間帯は選べない。ステージ出演についてはこれから公募も行っていく。

《質 疑》

・ステージでの出演内容は具体的にどんなイメージなのか？

→桂浜水族館は同館の職員が魚の紹介をする予定だ。カツオ県民会議であれば、例えば、設立した主旨や活動内容の紹介などが考えられるのではないでしょうか。

・カツオ県民会議のブースの位置は？

→資料のレイアウト図に示している通りだ（中央公園北口の帯屋町方面出入口付近）

※ステージ出演の内容について、カツオを包丁で鮮やかにさばくところを見せるとか、中土佐町「カツオ祭り」でステージに上がった子供たち（「サニーズ」）の出演など、さまざまな案が出た。なお、**出演する方向で具体的な内容を出水佐知さん（サニーマート営業企画部）と福島和彦さん（テレビ高知企画事業部）が検討することとした。**

（ちなみに、27日のステージではマグロの解体ショーが予定されている）

◇ 2018 年の W C P F C 年次会合について。 （幹事会事務局 松岡）

・今年の W C P F C 年次総会は 12 月 10 日（月）から 14 日（金）までハワイホノルルで開催されることになった。昨年の年次会合では、皆さんご存知のように 2018 年次会合は、ミクロネシア連邦のポンペイ開催案だったが、諸般の事情からホノルルのハワイ・コンベンションセンターでの開催に変更された。 （※ W C P F C 年次会合の直前、12 月 9 日にはホノルルマラソンがある）

・県民会議のメンバー 6 人が昨年、マニラでの年次会合に政府団の枠で参加した。政府団での参加は会合費用が無料だった。しかし、NGOの立場で会合に参加すると、初期費用として 300 US ドルで 2 人まで、1 人追加するごとに 350 US ドルの参加費用を求められる。また、政府団での参加は、会合がある毎朝、水産庁がその日の会議に関するブリーフィングがあった。ただ、マスコミ、NGO関係者はこれに入れない。

・参加に関する希望者募集、手続きなどは 7 月 13 日の幹事会で打ち合わせを行うこととする。

◇ 2018 年ロードマップ関係 (西野支局長)

・6 月 25 日：当分科会の黒笹慈幾さんがNHKラジオ第一放送で 17:05 から生出演する。カツオ県民会議の活動などについて話をする予定。

・6 月 30 日：高知城歴史博物館の第 2 回文化講座「魚を獲る～鰹漁の技」で、明神好和さん(黒潮町佐賀の第 151 明神丸船主＝2017 年 8 月開催の当分科会でも講師に招いた)が講師を務める。

・7 月 7 日：日本カツオ学会で受田浩之・県民会議会長代理(高知大学副学長)が発表する。東京海洋大学。

・7 月 16 日：高知城歴史博物館の「海の日」特別講座「土佐の魚類」で県水産振興部が講師対応。講師は水産試験場関係者で調整中。

・7 月 24 日：茨城大客員研究員 二平章氏を招聘して市民公開フォーラムを開催。15 時 30 分から高新文化ホール

・8 月 8～16 日：WCPFC 科学委員会 (韓国・釜山)

・9 月 3～7 日：WCPFC 北委員会 (東京)

※WCPFC 関係の会合は早稲田大学地域・地域間研究機構 真田康弘研究員にカバーしてもらう。

・9 月 8、9 日：「土佐風土祭り」ブース出展予定 (担当者は未定)

・9 月 22 日：高知城歴史博物館の第 3 回文化講座「魚を食べる」講師はRKC調理製菓専門学校の三谷英子校長。

・10 月 13 日：黒潮町「土佐さが もどりカツオ祭」にブース出展。高知銀行がスタッフを派遣する予定。

・10 月 20 日：高知城歴史博物館が主催する地域散策会「浦を歩く」で高知新聞 福田仁記者が土佐清水市の漁師まちの歴史文化をガイドする。

・11 月後半：カツオ関連の国内水産諸団体が東京で会合。中田勝淑 県カツオ漁業協同組合組合長が参加。

・11月25日：高知城歴史博物館で日曜市料理教室 特別版「土佐の魚料理」

※同博物館の筒井学芸員に県民会議メンバーに参加してもらおうべく話をしてきた。本人の承諾は得られたものの、同博物館側からの承諾が得られなかった。ただ、同博物館とは今後も連携や情報共有を図っていく。

◇インタビュー用バックボードの設置報告 (事務局 松島)

・中土佐町「カツオ祭」でも使った当県民会議のバックボードを高知新聞放送会館 西館ロビーに置いた。前回の分科会で高知新聞社が保管を引き受けることになり、館内の倉庫を見て回ったが、倉庫で保管するよりも目立つ所に置いてPRすることにした。近くに来ることがあれば、立ち寄ってください。

◇その他

(1) 竹内太一副座長から

100歳を超えても医師として活躍した故日野原重明（ひのはら・しげあき：東京・聖路加国際病院の名誉院長、文化勲章受章者）さんが設立した「新老人の会」（本部・東京）の高知支部（世話人代表 内田泰人）が9月17日「敬老の日」に開催する会合で、カツオ県民会議の話をしてほしいという依頼があった。

これを機会に、高齢者からも県民会議への支援が得られたら、これほど心強いことはない。

(2) 西野委員から県民会議ホームページ（HP）閲覧の呼び掛け

1日に1回、せめて2日に1回はHPを開いて見て欲しい。ここで更新されているブログを読めば、いま、何が課題になっており、どんな事に活動の重点を置いているのか、分かるようになっている。ページビューを上げるためにもぜひ、見てもらいたい。

※分科会終了後、西野共同支局長の送別会を兼ねた懇親会を開催（会場は引き続き土佐料理「司」）

以 上

第11回情報発信分科会 出席者名簿

2018/6/15 16:30～

於：司

| | | |
|--------|----------------------------|-------|
| 座長 | 宮田 速雄 (高知新聞社代表取締役社長) | |
| 副座長 | 竹内 太一 (株式会社 土佐料理司 代表取締役社長) | |
| 副座長 | 久松 朋水 (株式会社太陽 代表取締役社長) | |
| | 西野 秀 (共同通信高知支局長) | |
| | 福島 和彦 (テレビ高知企画事業部) | |
| | 越智 義久 (RKC高知放送報道制作局次長) | |
| | 斉藤 和三 (全日本司厨士協会高知県本部理事長) | |
| | 石元浩之進 (県観光コンベンション協会) | |
| | 佐竹 新市 (学校法人 龍馬学園理事長) | |
| | 小野川義人 (ほっとこうち代表取締役会長) | |
| | 黒笹 慈幾 (南国生活技術研究所) | |
| | 後藤 昌弘 (ANA高知支店長) | |
| | 木村 雅男 (ANA高知支店マネジャー) | |
| | 小笠原慶二 (県地産外商公社) | |
| | 西村 啓 (西村写真堂専務取締役) | |
| 新規会員 | 久場 幸信 (株式会社 林釣具製作所 社長) | |
| 新規会員 | 井上 大作 (毎日新聞高知支局長) | |
| オブザーバー | 出水 佐知 (サニーマート営業企画部) | |
| オブザーバー | 大山 隼人 (県水産政策課 豊か海づくり推進室) | ※会議のみ |
| オブザーバー | 岩崎 健吾 (県漁業振興課長) | ※会議のみ |
| オブザーバー | 田井野清也 (県漁業振興課チーフ) | ※会議のみ |
| 取材 | 福田 仁 (高知新聞社) | |
| 幹事会事務局 | 松岡 洋介 (幹事会事務局 高知広告センター) | |
| 分科会事務局 | 松島 健 (高知新聞社社長室) | |